

## 第9章

### ENSCOT 欧州科学コミュニケーションモジュールの 翻訳と活用

縣 秀彦

総研大物理科学研究科・国立天文台准教授

---

ENSCOT (The European Network of Science Communication Teachers; 欧州科学コミュニケーション教育者ネットワーク) が、2003年に発表した European Science Communication Modules (欧州科学コミュニケーションモジュール) は、科学コミュニケーション研究に携わる教育関係者および学生に向けて作成された教科書である。総合研究大学院大学では、いち早くこの教科書の重要性に注目し平田光司、横山広美 (現: 東京大学)、縣秀彦が中心になって2006～08年度にかけて翻訳作業を行い、2007年度より総研大他の講義で利用してきた。

本テキストは、7つのモジュールから構成されている。それは、第1章 Introduction to Modules (モジュール序論)、第2章 Models and Concepts in Science Communication (科学コミュニケーションのモデルおよび概念)、第3章 Media Studies (メディア学)、第4章 Political Initiatives (政治的イニシアティブ)、第5章 Science Controversies (科学論争)、第6章 Professional Culture (専門職の職業文化)、第7章 European Science Communication Workshop (欧州科学コミュニケーションワークショップ) である。

総研大ではこのうち1章から5章までを翻訳した。元の英文および翻訳文は、平田が代表を務める総合研究大学院大学の「科学と社会」に関する研究グループのグループウェアサイトに置いてあり、翻訳文は、

縣がユニット長を務める国立天文台科学文化形成ユニットのWebページ <http://prc.nao.ac.jp/ashub/> より誰でも閲覧が可能である。

本テキストは平成20年度総研大レクチャー「科学プロデューサ養成講座」でテキストとして活用されたほか、国立天文台科学文化形成ユニットが実施している科学プロデューサ養成コース「科学プロデュース入門講座」(平成19年度後期より年度内に前期、後期の2回実施中)、国立科学博物館が主催しているサイエンスコミュニケーター養成実践講座(平成19年度より毎年実施)等でもテキストとして活用されている。今後も総研大「科学と社会」関連の講義等でさらに利活用されることが望まれる。また、利用の頻度が上がれば残りの6章以下の翻訳作業も再開したい。